

高品質な監査の実現に向けて

—ニューノーマルを見据えた監査のあり方—

開催方式：録画によるオンデマンド配信

配信期間：4月下旬又は5月初旬から10月末まで

配信対象：IFIAR ネットワークメンバーの会員等

共 催：日本監査研究学会、日本公認会計士協会

後 援：金融庁、公認会計士・監査審査会、日本取引所グループ／東京証券取引所、
日本監査役協会、日本経済団体連合会、日本内部監査協会

参加費：無料

CPE 申請：日本公認会計士協会

日本内部監査協会

開催趣旨

監査の品質向上を議論するとき、監査人サイドの問題として狭く捉えるべきではありません。監査の品質向上の究極的な目的は、高品質な財務報告の実現にあるからです。

そこで、財務報告の信頼性を保証する監査人だけでなく、財務報告の主体とその監視・監督を担うガバナンス機関、財務報告と監査結果の利用者、財務報告の信頼性に大きな影響を受ける市場・金融関係者、さらには財務報告に係る規制機関など、様々なステークホルダーが各々の責任を果たしつつ、有機的に影響を与え合うことで、高品質な財務報告を実現することができます。

また、最近では、非財務報告を含めた統合報告の信頼性と有用性の確保が指摘されています。その意味でも、上で述べたような様々なステークホルダーの積極的な関与が求められています。

本シンポジウムは、昨年3月に実施する予定で準備を進めて参りました。ところが、新型コロナウイルス感染症の拡大により延期を余儀なくされ、加えて昨年末には、シュナイダーIFIAR 議長の急逝という悲しみに遭遇しました。

新型コロナウイルス感染症は、企業を取り巻く事業環境を激変させました。それに伴い企業経営も大きく舵を切らざるを得なくなっています。監査も例外ではあり得ません。監査品質の低下を招かないようにといった後ろ向きの姿勢ではなく、これを機に監査品質の向上を目指す前向きの議論も必要かと思えます。

そこで、今回のシンポジウムでは、新型コロナウイルス感染症の影響やニューノーマルを見据えた監査のあり方まで視野に入れながら、高品質な監査の実現に向けて議論を深めることができれば幸いです。

アジェンダ

1. 開会の挨拶：堀江正之氏（日本監査研究学会会長）

2. 基調講演：“IFIAR における議論の動向”【30分】

スピーカー：Duane M.DesParte 氏（IFIAR 議長代理）

モデレータ：長岡 隆氏（金融庁 IFIAR 戦略企画室長）

3. パネルセッション：

セッション1：高品質な監査に向けた取組 【1時間30分】

セッション1の趣旨：

変化し続ける監査環境の中で、国際動向をも踏まえながら、監査品質を巡る課題、高品質な監査を実現するためにはどのような取組・施策が求められるか、さらにはニューノーマルを想定した高品質な監査のあり方等について、学究の立場、監査人の立場、監督当局の立場からプレゼンテーションを行います。

司会：金子裕子氏（早稲田大学大学院教授）

登壇者： ●町田祥弘氏（青山学院大学大学院教授）

●手塚正彦氏（日本公認会計士協会会長）

●井上俊剛氏（金融庁企画市場局参事官）

セッション2：高品質な監査と財務報告の信頼性向上に向けた取組 【2時間】

セッション2の趣旨：

高品質な監査と財務報告の信頼性向上に向けて、“財務報告エコシステム”という観点から、いかなる課題が認識され、高品質な財務報告を実現するための鍵は何かを中心に議論を深め、さらにはニューノーマルを見据えた高品質な財務報告と監査のあり方について、議論の範囲を広げて、ディスカッションを行います。

モデレータ：瀧 博氏（立命館大学教授）

パネリスト： ●安藤 聡氏（オムロン株式会社取締役）

●川島 勇氏（日本監査役協会副会長、日本電気株式会社監査役）

●小倉加奈子氏（日本公認会計士協会副会長）

●佐藤淑子氏（日本 IR 協議会専務理事）

●油布志行氏（金融庁・IFIAR 戦略企画本部長）

4. 閉会の挨拶：小暮和敏氏（日本公認会計士協会副会長）